



明けましておめでとうございます

1963年、今から50年前の2月に、当時の小倉市、門司市、戸畑市、若松市、八幡市の5市が合併して北九州市が誕生しました。人口100万人を擁する全国6番目の政令指定都市の誕生です。1963年は、最高裁で松川事件の被告全員の無罪が確定、アメリカではケネディ大統領暗殺、国産連続テレビアニメの第1号の「鉄腕アトム」の放映開始、歌謡曲は「高校3年生」「見上げてごらん夜の星を」が流行りました。紅白の視聴率は史上最高の81.4%でした。東京オリンピックの前年で、経済は右肩上がり。まだまだ国民は貧乏でしたが、でも若者を含め大人にも「夢」があったように思います。

北九州市は、4大工業地帯として発展してきましたが、一方で激しい公害が起き、激しい大気汚染、工場の排水で洞海湾は「死の海」となります。しかし、市民の粘

り強い告発と運動が行政を動かします。平成23年に北九州市が国から「環境未来都市」として選定されたことは、市民の運動の成果です。

それから50年、日本は「本格的な高齢者社会」に入っているとされています。とりわけ北九州市は高齢化率(総人口に占める65歳以上の高齢者の割合)が高いのです。

高齢者に元気がないわけではありません。「9条の会」の担い手は60代、70代です。今年の流行語大賞に「イクジイ」(育児をするおじいちゃん)、「終活」(遺産相続や遺言などを生前に準備し、自分らしい人生の最期を前向きに考える)が入っています。

しかし、若者たちは、失われた10年・20年と言われる経済不況、新自由主義による格差の拡大、ワーキングプアの増大など過酷な状態に置かれています。そん

な中で政治に対して諦めてしまった若者が確実に増えています。社会が複雑になり、政治も複雑になり、マスコミは問題の本質に触れず政局だけを報道する。政治に対する不信感は増大するはずですが、こんな閉塞した時代には、英雄、強いリーダーシップを期待しがちです。とりわけ日本人はそのような感覚が強いように思われます。

しかし、3・11以降新しい運動が日本中で巻き起こっています。普通の市民が、自分の頭で考え、参加し、行動する。総選挙の予想(12月上旬)は自民党の圧勝のようです。しかし総選挙の結果はともかく、今後の日本の進むべき方向を国会議員の数合わせの多数決で決められては困ります。

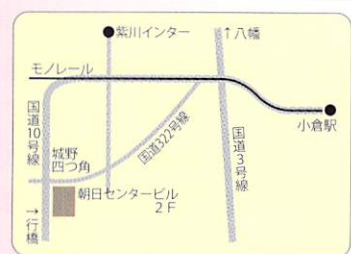
若者も高齢者も力を合わせてこの国を動かす一人になりましょう。その時の羅針盤は憲法です。

■ みなさんといっしょに環境や社会の問題を考え、紙面を作っていきます。

東風

No.26

- 発行日 2013年1月1日
- 発行所 小倉東総合法律事務所
- 編集者 荒牧啓一
- 連絡先 〒802-0062 北九州市小倉北区片野新町2丁目12番21号
朝日センタービル2階
TEL093(932)5575
FAX093(932)5600
e-mail:ponpokou@lime.ocn.ne.jp



北九州市政50周年を迎えて

市民の闘いの歴史を振り返る



発展の影に市民の闘いの歴史

1963年2月に北九州市が発足してから50年。市制発足50周年を振り返るとして、テレビで走馬灯形式の映像が連日放映されました。モノレールの開通・皿倉ケーブル発足・小倉城やスペースワールドと次々に見栄えのする景観がクルクルと。そしてしめくくりの解説は“公害を克服した環境モデル都市北九州”でした。

まさに慨嘆に耐えません。今日までの市政の中で市民の闘いによりあきらかとなり、全国的に話題になったことは意図的に除外されています。読者の皆さんと主な出来事を想起してみましょう。



犯罪的な不公正をうんだ同和行政に対する・山田弾薬庫の核疑惑と市街地を日常の経路にしている富野基地の弾薬搬出入の暴露・住友金属や新日鉄の有害廃棄物の不法投棄(新門司埋立地・響灘埋立地)の摘発と改善・若戸大橋無料化訴訟・そして中学校給食の実施や小中学校の教室暖房実施の市民の声を議会の総意にまでしていった粘り強い闘い等々。まだまだ紙面では語りつくせない市民の闘いと要求の実現の運動は、全国的に衝撃と話題を呼んだものでした。

しかし市政50周年を企画する市当局は、これらを語ろうとはしません。市政50年のお祭りのなかに、隠されようとされ、むしろ消されようとしている歴史が見え隠れします。

50周年を振り返るとき、世論と市民要求が生んだ確かな成果もあるが、一方で今日につながる負の遺産もある。それどころか明日の市民生活に甚大な被害を生む、「恐るべき遺産」が市政50年の中に潜み、いま現れようとしていることを注視し共同の課題にせねばなりません。

白島石油備蓄基地撤去の危険性

牙をむく悪魔が隠されている市政50年、その最悪・最大のものが白島石油備蓄基地です。北九州北海岸8km沖、水平線上に大型ケーソン(1個の重さ約1万トンのコンクリートの防波堤)に囲まれて1隻70万トンの原油貯蔵船8隻が見える。全容量560万トンの白島の原油は、貯蔵船(実態は巨大洋上タンク)の中での爆発性の原油ガスを常に発生させています。

酸素の濃度管理は寸刻も休めない。その管理をあやまれば瞬間的に大爆発に至ります。調整は白島の東海面埋立地(14ha)の発電施設と制御センターに集中しています。

1987年の防波堤決壊のときには、貯蔵船は入泊しておらず、幸い爆発や災害にはなりませんでしたが、いま、オイル



1万トンケーソンの泊地内転落

インしている巨大貯蔵船8隻(1隻の表面積が戦艦大和の4倍)には原油と爆発性ガスが充満しています。

白島海域にのびている東小倉・福知山、頓田断層の活断層の危険(東洋大・渡辺満久教授)も指摘されています。仮に事故や災害がおこれば、絶海の孤島白島に平地は無く、密集する危険施設や崩壊する

埋立地から逃れることが出来ない300人以上の労働者の犠牲は必死です。

560万トンの原油とガス爆発は、世界史上最大の海洋大災害を招来します。25年前の防波堤決壊を期に、荒牧啓一弁護士を含む弁護団の指導のもとに、白島石油備蓄基地の原油撤廃を求めて石油公団を相手に訴訟を起こしました。公判のたびの大勢の支援者による傍聴と、弁護団の献身的な活動で、裁判の中で、金権・利権がらみの大企業・暴力団、行政の



ジャケットの劣化が著しい

深い絡みも具体的な事実を通して明らかになっていきました。

しかし、裁判の判決は、私たち市民の訴えをしりぞけ、「昭和62年2月3日の決壊は想定外のことであり、現在石油基地設定による差し迫った災害危惧は無い」としたのです。

それから25年。今東日本大震災の教訓は、まざまざと白島裁判の問い直しを、私たちに示しています。地



震が襲えば埋立地の全面液化と防波堤と中央監視制御室の崩壊・原油タンカー(20万トン級)離着機のシーバース、配管橋の著しい劣化、原油貯蔵船の老朽化等々、基地全体の安全保守は疲労限界に至っているのです。

市政50年の中で4500億円の総工事費と40億円を越える漁業補償を費やした魔の遺産は、北九州の広域暴力団を今に拡大させる原資となったといえます。市政の根幹にかかる反省をこめ、直ちに白島基地の原油撤去の声を上げましょう。

(元共産党市議会議員 野依いさむ)

Information

新 鮮 情 報

原発をなくそう!九州玄海原発訴訟

原告団を募集します!

同封の通り、全ての原発をなくすため、まずは玄海原発を止めようと九州電力を相手に、5000名を超える原告で原発差し止め訴訟を闘っています。

あの「世界の中心で、愛をさけぶ」の著者片山恭一さん(福岡県在住)も、原告として、意見陳述を行いました。

「福島の事故が起こってまず思ったことは、私たちは歴史上はじめて、未来の者たちから憎まれ、蔑まれる先祖になったのかもしれない、ということです。

(中略)

私たちが個人でなしうることは、一人の人間の身の丈を、それほど超えるものではありません。しかし私



●みな様からの暮らしの智恵やおもしろ情報
お勧めの書籍など、としとしお寄せ下さい

たちが「こうありたい」と望むことは、過去と未来を貫いて、人間全体を眺望しうるものです……(略)……
過去を健全に引き継ぎ、歪曲されない未来を受け渡していこうとすることによって、私は自らが望むべき者でありたいと思います。そして私たち一人一人の人間性を深刻に損なってしまう原子力発電からの速やかな離脱を、この裁判をとおして強く訴えたいと思います」 (片山恭一氏意見陳述より抜粋)

●皆様の訴訟へのご参加をお待ちしております。

ホームページを開設します!

1月末頃には開設の予定です。「小倉東総合法律事務所」でアクセスしてみてください。

事務所へのアクセス方法、弁護士紹介、東風などアップする予定です。

何日からなるかは乞う期待!ちょうど開設日にヒットした貴方は今年1年ついでるかも(笑)

小倉東総合法律事務所

検索